

【2009 年度事業のまとめ】

日本冒険遊び場づくり協会は、

「遊び あふれる まちへ！—地域で子どもたちが自由に遊び育つ豊かな社会の実現」

をミッションに掲げて、**1. 遊び観・子ども観を世に問いかける** **2. 冒険遊び場づくりの魅力をアピールする** **3. 活動の展開ノウハウを開発する** を活動の指針としています。

2009 年度は、3つの重点項目【A. 中間支援組織としての体制の構築、B. 地域ごとの交流強化による会員相互の顔が見える関係づくりの推進、C. 対象を明確にした普及・啓発活動の推進】を掲げて9つのプロジェクトに取り組みました。

3つの重点項目ごとに達成された概況は次の通りです。

A. 中間支援組織としての体制の構築

2008 年度から始まった地域運営委員制度は、8 名（2009. 4.）から 14 名（2010. 4.）へ増員され、会員をつなぐネットワーク型の中間支援組織としての体制が整ってきました。また事務局は、財政的な理由により 2 名（週 5 日 1 名、週 3 日 1 名：2009. 3）から 1 名（週 4 日 1 名：2009. 4. ～）体制となりましたが、理事たちが連携して運営を支えてきました。財政的には難しい状況を克服したとはいえ、依然大きな課題があります。しかし、幸いなことには、財政立て直し策として取り組んだ会費値上げによる会員離れを最小限に抑えることができました。

B. 地域ごとの交流強化による会員相互の顔が見える関係づくりの推進

N遊S 第 40 号の特集「小集まりのススメ。」の発行後に、松江、東京、京都、仙台、札幌と、各地で地域ごとの交流会が開催されました。全国で活動する会員が、N遊S や ML を利用して地域ごとに集まり、会員相互の顔が見える関係づくり（＝小集まり）が推進されました。

C. 対象を明確にした普及・啓発活動の推進

2009 年度には政権交代がありました。この期に日本冒険遊び場づくり協会は、子ども自身の育ちや遊びに関する政策が展開されるように、提言書『「外遊び」の力を次の世代に』を発行しました。冒険遊び場づくりが、子どもの居場所づくりにとどまらずに、まちづくりの中で様々な役割を果たすことを、新政権、政党、省庁、地方自治体、企業等にアピールしてきました。冒険遊び場づくりの魅力やその必要性に未だ気づいていない人への普及・啓発活動を推進してきました。

次ページから掲載する 9 つのプロジェクト以外の主な取り組みの概要は次の通りです。

○2010 年度に開催予定の「第 5 回冒険遊び場づくり全国研究集会」の実行委員会を立ち上げ、助成金申請、体制づくり、内容検討など、準備を開始しました。

○2009 年に出版された「都市の遊び場（復刊）」「プレイワーク」「遊びの力」の 3 冊出版記念学習会を 12 月 1 日（火）キャロットタワー 4 階会議室（世田谷区）で開催。望月昭氏に「ソーレンセンの思想と冒険遊び場の誕生」の講演会を頂き 80 名程で冒険遊び場づくりの原点と展開を語り合う人の交流が促進されました。また出版物等の販売を工夫することによって、63,700 円の収益を得ました。

01 中間支援組織としての財政基盤強化と事務局体制再構築

■事業目的： 全国を対象とした中間支援組織としての財政基盤と、各地とのネットワーク型活動団体として多様な参加形態を受け止めながら応じることのできるスリムな事務局体制を確立する。

■実施体制： 大村虔一、天野秀昭、石田太介、関戸まゆみ、梶木典子、古賀久貴、根本暁生、三浦幸雄、菅博嗣、事務局・細見佑子

財政基盤の確立は、大村代表を中心に取り組み、新リーフレットづくり作成チーム、政策提言策定チームと連携して取り組んだ。2009年度のスリムな事務局体制は、細見事務局員を関戸、天野、石田、梶木副代表ならびに古賀、根本両理事が支える体制で凌いできた。

ネットワークの形成は、石田副代表を中心としたインターネット活用担当理事、会員企画編集部、そして地域運営委員の協力を得ながら取り組んだ。

■活動概要と成果：

- 1) リーフレットと提言書を活用した行政・企業等への広報と財政支援への協力要請
準備段階までの取り組みはほぼ整ってきた。次は、協力要請にかかわる実体的な活動を開始する。
- 2) 昨年度発刊の書籍を活用した行政・企業等への広報と施策協力への要請
個人的な人間関係を頼りとして企業等への要請が行われた。今後はこれまでの経験を踏まえて戦略的な展開を企画していく。
- 3) これまで関わりのある個人・団体の会員・賛助会員への勧誘
昨年度、京都と東京で開催した「大村璋子さんを偲ぶ会」への参加者との久しぶりの再会そして旧交を温めたことを機に、理事たちが中心となって冒険遊び場づくり活動への賛同を呼びかけていくことが議論された。
- 4) スリムな事務局とそれを支えるネットワークづくり
会員相互のメールの交換は広がりを見せている。またN遊S制作などそれぞれの活動はメッセージ性も高まり多くの人の興味を引くものになってきた。「ネットワーク型活動団体」としてのこういったやり取りから生まれる相互の連携が、やがてスリム型の事務局体制を支える力にもなってくれることを期待しているが、事務局規模の想定も含め今後の課題である。
- 5) 会費未納者への対応
昨年度、会費値上げに到った原因の一つに会費未納者の存在があった。原因となっていた「何年度まで払ったのか分からない」「振込みに行く時間がない」ことへの対応策として、会員への送付物に何年度まで納入されているかを記載、払い込み用紙を同封、そしてゆうちょ銀行の自動払込制度を導入した。その結果未払い者が、146名・団体（2009年3月末）が、108名・団体で内55名が元購読会員（2010年3月末）となり会費収入が187万円から320万と増加した（同時期比較）。

02 インターネットを活用した情報受発信方法の整理と構築

■事業目的： ミッションを伝え、タイムラグの少ない相互交流のスキルとしてインターネットによる方法を企画推進する。具体的には、協会の広報手段のひとつとして、また多くの人のインターネットを活用した情報発信や双方向の情報提供の可能性を検討して構築する。

■実施体制： 石田太介、嶋村仁志、古賀久貴、梶木典子、斉藤啓子、関戸まゆみ
ホームページ、メーリングリストの運用は細見事務局員を中心に取り組んだ。メールマガジンは嶋村理事が試作品の配信を通じてその将来展開を検討した。一連のインターネットを活用したシステムの可能性とあり方については、技術者でもある石田副代表が担当した。

■活動概要と成果：

1) ホームページの充実

協会のホームページは、2007年に当時の古賀久貴事務局長と齋藤啓子理事・関戸まゆみ理事が中心となって大改革を行った。現在は、更なる内容の充実に向けて、現在掲載中の運営委員一覧にプロフィールを追加掲載する準備を進めている。これによって協会で行き届く「講師無料派遣事業」などが展開されやすくなることが期待できる。

2) メーリングリスト (ML) の拡充

協会の経営、会員の相互交流などを促進するために、現在下記の5種類のメーリングリストを運営管理している。メーリングリストの管理は、事務局員と石田副代表が担当している。協会会員相互の情報共有を目的に、2010年度会員向けMLを作成することを検討しているが、「MLの乱立は重複投稿と情報の希薄化に繋がる」との懸念もあり意見交換の最中である。

〈5つのML一覧〉

- ・ JAPA_KAIIN_09@yahoogroups.jp 2008～2009年の協会会員を対象
- ・ JAPA_Rijikai@yahoogroups.jp 協会理事・会計・事務局を対象
- ・ JAPA_Uneiiin@yahoogroups.jp 理事会 ML・地域運営委員・幹事を対象
- ・ JAPA_Jimukyoku@yahoogroups.jp 事務局担当理事・事務局員・会計
- ・ asobiba_ml@yahoogroups.jp 会員・非会員問わず自由

3) メールマガジンの検討

協会会員特典となるサービスの確立を目的に会員メーリングリストを使ったメールマガジンの発行を検討している。嶋村理事と事務局が中心となって2度の試作号（12月号、1月号）を発行し、今後の可能性と課題を検討した。これまでは会員からの反応が薄く、取り組みを再構築する検討をしている。

4) 協会ブログ作成の検討

現在、事務局員がどこにもリンクを張っていないが事務局ブログを作成している。ブログは取り扱いも簡便なために掲載記事の更新も容易であり、協会の日常が手軽に発信出来る点が便利である。早い段階で協会のHP上にリンクを張ることを検討していきたい。このブログから講師派遣の報告も行う可能性を模索している。

03 国への政策提言に向けた研究と行動

■事業目的：「遊び あふれる まちへ！ー地域で子どもたちが自由に遊び育つ豊かな社会の実現」を施策に位置づけていくために、次世代育成対策推進法に基づく各市町村の「後期行動計画」（平成22年度から5年間）の策定に向けて働きかける。具体的には、「冒険遊び場」や「プレーパーク」に関する施策の記載を増やすために、会員や冒険遊び場づくり活動団体による各地域の市町村への施策提案を支援する。あわせて、各地の企業に対しても、上記提案資料を活用して「冒険遊び場」や「プレーパーク」に関する説明を行い、冒険遊び場づくり活動に対する理解を求める。

■実施体制：佐々木健二、梶木典子、三浦幸雄

政策提言の説明資料となる提言書「外遊びの力を次の世代に」は、佐々木理事を中心とした理事が基礎資料収集、原案作成、メール交換及び対面での推敲を重ねて作成した。提言書を用いた各方面への提言活動は、担当理事と事務局を中心に理事ならびに地域運営員をはじめ、多くの会員の協力を仰いで実施した。

■活動概要と成果

1) 提言書「外遊びの力を次の世代に」には、ボランティアが刷り上げた第1版（10月上旬、白黒印刷、250部）と一部加筆修正して業者発注した第2版（10月下旬、表紙のみカラー、3000部）がある。また、東京地区の会員有志による「東京遊び場マップ」は10月下旬に10,000部印刷した。

2) 提言書及び東京遊び場マップの配布は、会員への無料配布のほか提言活動での活用時には無料配布、勉強を目的とする場合には300円として希望者を募った。

事業収支は、印刷配布費約245千円（第1版：8千円、第2版：237千円）、東京遊び場マップ印刷費：110千円で合計355千円。2010年1月末時点の収支では21千円の黒字（販売収入：152千円、カンパ収入：224千円（企業の広告宣伝費50千円含む）。3月末時点で、提言書の在庫は502冊。

配布は、理事・地域運営委員及び多くの会員が様々な場面で実施した。主な配布先としては、政府機関（内閣府、文科省、厚労省など）、都道府県（滋賀県、岡山県など）、市町村（新潟県燕市、千葉県習志野市、京都府宇治市、長崎県佐世保市など）、NPO・各種団体・企業などが挙げられる。

配布成果としては、札幌市などにおける地方自治体の後期行動計画案に冒険遊び場・プレーパークという文字が記載されたという報告もあり、政策立案を援護できたものと考えている。また、佐々木、関戸両理事によって「につぼん子育て応援団」など政府への政策提言を行なう団体と連携をとり、「10・28緊急アピール集会」などで外遊びの必要性について直接政府関係者に訴えるとともに、多くの子育て関連NPOにも伝えることができた。

04 会員参加型の相談支援体制の構築

■事業目的：冒険遊び場づくりについて関心を持った人、活動をはじめて「さらに知りたい」「どのように取り組めばよいか考えたい」という人が、相談を持ち込むことのできる窓口を整え、会員参加型で相談に応じていくことのできる体制をつくり、「ひとりの疑問の発信を起点に、多くの人々が考え、力をつけていく仕組み」として育てていく。

■実施体制：根本暁生、天野秀昭、佐々木健二、（事務局）細見佑子

相談要請などを受け止める社会からの窓口を事務局が担い、各地の理事と地域運営委員

が連携して相談に応じていくことのできるシステムの検討と試行を根本、天野、佐々木理事が担当した。また小集まりの実施においては、「N遊S」編集部が特集を組み広報を担った。

■活動概要と成果：会員参加型による相談支援体制の基本形は次の通り。

- 1) 事務局への問い合わせ（電話・メール等）
- 2) 内容に応じて担当理事と協議して対応案をつくりメーリングリスト（運営委員）で呼びかける
- 3) 各地域の理事、地域運営委員ならびに活動経験のある会員に積極的に働きかけて支援に取り組む

このような体制によって、京都でのプレーリーダー募集の相談に関西地域の運営委員が対応する、函館からの仲間づくりの相談に東北地域の運営委員が対応する、滋賀県からの相談に関西地域の運営委員ほかに対応する、といった実績があがった。

これは、拡充された地域運営委員体制によるところが大きい。今後は、相談を通したより身近な地域での交流が生まれやすい状況づくりと全国の仲間との共有に反映するという観点でさらにシステムを整えていくことが必要である。また複数の地域で「小集まり」「中集まり」なども生まれるきっかけ作りをした「N遊S」編集部との連携を継続させ、会員同士で情報交換や相談ができる仕組みにつなげていきたい。

05 子どもの遊びに関わる大人の育成

■事業目的：冒険遊び場づくりの理念と実践の普及には、理解し行動する人材の有無が決め手となる。子どもに関わるプレーリーダー、冒険遊び場を運営する市民、サポートする機関や行政の担当者、また子どもの遊びに関わるさまざまな立場の大人たちが、いかなる大人であるのかが問われてくる。

どのような『子ども観』『遊び観』を持って遊び場をつくるのか、いかに運営するか、どのように子どもと向き合うのかといった問いに丁寧に向き合い、豊かな遊び環境の創成のために欠かせない人材の育成を図る。

■実施体制：天野秀昭、竹内乃璃妃、嶋村仁志

2009年度は、事務局がスリム化に取り組んでいるところから実施事務の負担を回避するために過去に実績をあげてきた協会独自の遊育プログラムの実施は検討しなかった。これに替えて天野副代表が窓口となって、外部のプログラムとなる大正大学のカリキュラム開発と実施支援に取り組んだ。

■活動概要と成果：遊育プログラム実施の要望を受けて、2010年2月に関西地域での遊育プログラムの計画を模索したが、講師との日程調整を解決することができずに実施できなかった。一方、外部との連携として日本冒険遊び場づくり協会は、2010年度から大正大学でスタートするプログラムを支援することとなった（本プログラムは日本冒険遊び場づくり協会認定の遊育プログラムである：2008年度第1回理事会承認）。大正大学の特任教授である天野副代表が窓口となり、当協会の会員が支援する本プログラムの概要は次の通りである。

- 1) 大正大学が2009年度に開設した「アーバン福祉学科：のびのびこどもプロダクトコース・子ども遊び創造サブコース」を「日本冒険遊び場づくり協会認定プレーリーダー

一養成課程」とした。

冒険遊び場の常駐プレーリーダーとして活動できる人材の育成を目的とした日本で初めての大学の4年制のコース。コースは4つのサブコースから成り、1年次には全て経験、2年次に2つ、3年時になってどれか一つを選択する。従って認定は、3、4年次に選択した学生に絞られる。

2) 9月～10月の毎週土曜に一般向けの大正大学オープンカレッジとして「遊育プログラム」(6日間、全12コマ)を計画した。しかし、事前の広報活動が十分でなかったため、応募者が最低実施人数に達せず残念ながら開講できなかった。

平成21年度 大正大学

大正大学オープンキャンパス「遊育プログラム」の内容(1日2コマ連続6日間/1コマ90分)	
1	「遊びは生きる力だ!」 【講義】天野 秀昭 子どもにとって遊びが如何に不可欠なものであるか、冒険遊び場での実践を背景に講義し、本講座の基本をなす子ども観、遊び観を提示する。
2	「なんで遊びは生きる力だ?!」 【ディスカッション】天野 秀昭 前半の講義を踏まえグループディスカッションし、その後全体で疑問、意見を講師にぶつけてもらい、講義内容を深める。
3	「子ども時代とめぐり合う」1 【ワークショップ】天野 秀昭 アイスブレイクに始まり、互いの子どもの頃のインタビューなどを経て、子ども時代の自分を思い出す作業に取り掛かっていく。遊びの絵地図を描き、その時代を具現化する。
4	「子ども時代とめぐり合う」2 【ワークショップ】天野 秀昭 その頃のエピソードを付箋紙に落とし、そのエピソードが「快」「不快」等いかなる情動に裏付けられて記憶されているかを思い出し、大人となった今の自分の子どもとのやりとりを振り返る手がかりとする。
5	「遊びを体感する」1 【実習】 巣鴨キャンパスから出て実際に、外部のプレーパークに行き現場実習をする。 したがって、実施場所や時間に変更が生じる場合がある。詳細は講座内で案内する。
6	「遊びを体感する」2 【実習】 実際に遊び場で子どもを体感し、その言動、しぐさ、表情等からの気づきをシェアし、自分の感じかた、見方を振り返る。
7	「住民運営のちから」 【講義】関戸まゆみ(日本冒険遊び場づくり協会) 日本冒険遊び場づくり協会は、冒険遊び場の基本的運営を住民が担うことを提唱し続けている。その本当の意味とは何か。住民が運営することで生まれるダイナミズムと、「自治」の本来の姿について問題提起する。
8	「応急手当の方法」 【講義】天野 秀昭 遊び場では、小さな怪我が起きることは覚悟しなければならない。そのときどのくらい適切な対応ができるか。遊び場で起こる怪我に対する対応を学ぶ。
9	「遊び場のリスクとハザード」 【講義】大坪龍太(PSN:プレイグラウンドセーフティネットワーク代表) 「危険」を表わす英語は2つある。危機察知、及び学習が可能な「リスク」。隠され学習もかなわない「ハザード」。遊びには「危険だから楽しい」という側面がある。残すべきリスクと、取り除くべきハザードについて考える。
0	「自由に遊ぶことと責任問題」 【講義&ディスカッション】天野 秀昭 冒険遊び場のモットーである「自分の責任で自由に遊ぶ」とは、一体どういうことなのか。自由と責任、主体の問題について問題を提起しつつ、何が危険で何が安全なのかを考える。その上でディスカッションをし、内容を深める。
1 1	「プレーリーダーのちから」 【講義】竹内紀子(日本冒険遊び場づくり協会) 子どもが自由に遊ぶことを目指して生まれた冒険遊び場には、プレーリーダーと呼ばれる大人が常駐する。その存在があることで広がる可能性について、国内最ベテランのプレーリーダーが語る。
1 2	子どもの遊びの傍らに立つ私の「マニフェスト」 【ワークショップ】天野秀昭 子どもの遊びの傍らに立つ大人として何を大切にしようかと思っているのか、自分を振り返り、こうありたいと思う自分のマニフェストをつくる。

06 全国規模で子どもの遊びを考えるキャンペーンの企画と実施・支援

- 事業目的：社会において、子どもが遊ぶことへの理解が深まることと、冒険遊び場への認知が向上することを旨として、各地の冒険遊び場活動がキャンペーンを展開できるような枠組みを作り、地域・地方での交流・発信するための援助を行う。その積み重ねにより、当協会および会員が、将来、「プレイデー」のような「全国規模で子どもの遊びを考えるキャンペーン」に向けて他分野・他業種の人々と手を組むための土台を作る。
- 実施体制：嶋村仁志、石田太介、関戸博樹
東京を拠点にした活動に絞り、嶋村、関戸が中心となって実施した
- 活動概要と成果：当協会が、東京都福祉保健局少子社会対策部が事務局となって実施している「子育て応援とうきょう会議」の「NPO等ネットワーク事業」の委員として、東京都内の子育て関係のNPOと共に参加した。これをきっかけに全国での動きにつながることを期待し、地域・地方での交流と発信の手始めとして、東京都内で活動する冒険遊び場の会員に呼びかけを行い、地域運営委員の協力を得て、「とうきょう冒険遊び場マップ」を作成した。また、マップの完成時に、東京都内の活動団体に会合を開いた。この会合は継続的に実施していく予定となっている。マップについては、10,000部の印刷を行い、68,240円の寄付・収入があった。事務局での残り部数も1,000部を切り、好評であったと思われる。
- 活動概要と成果：当協会が、東京都福祉保健局少子社会対策部が事務局となって実施している「子育て応援とうきょう会議」の「NPO等ネットワーク事業」の委員として、東京都内の子育て関係のNPOと共に参加した。これをきっかけに全国での動きにつながることを期待し、地域・地方での交流と発信の手始めとして、東京都内で活動する冒険遊び場の会員に呼びかけを行い、地域運営委員の協力を得て、「とうきょう冒険遊び場マップ」を作成した。また、マップの完成時に、東京都内の活動団体に会合を開いた。この会合は継続的に実施していく予定となっている。マップについては、10,000部の印刷を行い、68,240円の寄付・収入があった。事務局での残り部数も1,000部を切り、好評であったと思われる。2010年度以降、この東京での取り組みをモデルにして、他府県でもこのようなマップ作りを地域・地方での交流と発信を進めたい。2010年度は、第5回冒険遊び場全国研究集会在開催されるが、そのイベントとして、8/29に「冒険遊び場全国一斉開催の日」を設けている。このような機会が、冒険遊び場の社会的認知の向上と他業種・他分野との連携につながることを期待したい。

07 会員参画編集部によるN遊Sの制作

- 事業目的：「遊びあふれるまちへ！」に向け、全国の冒険遊び場づくりに関心のある会員を対象に、広がりを持ったテーマで冒険遊び場づくりについて「知りたい情報」「必要な情報」を、会員参画の編集委員会から発信する。
- 実施体制：齋藤啓子、関戸まゆみ、編集委員、(事務局)細見佑子
担当理事と事務局、公募による編集委員が、編集会議、取材、原稿作成、版下作成を行っている。09年度は、地域運営委員からの協力も得た。

編集委員：齋藤啓子理事、関戸まゆみ副代表、古賀久貴理事、塚本岳地域運営委員、高子美典地域運営委員、細見佑子事務局員、谷居早智世（会員）、小林アタル（会員）、宍戸香織（会員）

■活動概要と成果：N遊 S39号（5/25 特集「協会破綻か?!」）、40号（9/10 特集「小集まりのススメ」）、41号（12/1 特集「プレーワーク」）、42号（3/15 特集「報告書づくりゴク楽秘伝帖!!」）を、会員参画により編集・発行した。

39号では、会費の改定に対して協会の財政面での運営状況をお知らせし、購読会員から正会員への変更、会費納入の促進など成果があった。

40号では、よその遊び場の人と集まってみることを「小集まり」と名前をつけることで意識化したところ、松江市周辺、仙台市周辺、札幌市周辺、京都市ほかで集いが催された。会員参画に留まらず、会員活動促進型の編集にも発展してきた。

41号では、特集のための嶋村仁志理事と天野秀昭理事にN遊S編集委員小林アタルが聞くというプログラムを、公開対談＜徹底討論!! どう活用する、プレーワーク＞とし、11名の参加者が興味を持って聞くことができた。編集にあたっては、「プレー」と「プレイ」の表記について話し合い、紙面上の表記の提案を行なった。

42号は年度末の発行時期に合わせ、報告書作成のアドバイスを特集した。

会員参画の編集委員には遠方からの名乗りもあり増員があった。メール利用の意見交換と実際の編集会議の双方で進めた。また作業には編集委員以外の会員からも多くの協力があった。レイアウトの確認作業も組み入れ、紙面の完成度があがった。

08 冒険遊び場づくりをめぐる対話の会の実施

■事業目的：冒険遊び場づくりの「契機ならびに展開の多様性」の共有が目的である。2008年度は、各個人が冒険遊び場づくりに関心を持つようになった背景、活動の契機と継続のモチベーションの多様性を知ることができた。2009年度はそれに加えて、各人の専門領域等における観点から、冒険遊び場づくりの展開の多様性を見出すことを目的とした。

■実施体制：古賀久貴、菅博嗣

担当理事である古賀久貴、菅博嗣と、会員の谷居早智世で企画検討を行った。11月に実施した番外編では、仙台の西公園プレーパークの会に協力を仰ぎ、企画乗り入れの形で行った。

N遊Sでのダイジェスト報告にあたっては、会員の渡辺龍彦、加藤寛子、地域運営委員の伊師洋香が執筆を担当した。PDF冊子作成は、古賀、菅、谷居が担当する。

■活動概要と成果：2008年度に始めた対話の会は、協会理事とホスト役古賀とで行った。これまで1・古賀久貴、2・齋藤啓子、3・関戸博樹、4・石田太介、5・佐々木健二、6・竹内のり子（以上6理事を2008年度）実施し、2009年度は、7・福島智子監事（番外編）を実施した。

また、今後は大村代表が全国各地に出向き、地域運営委員や会員、さらには行政など多様な人たちと対話する企画「もっと！対話の会」として実施していくという方向が決まった。現代社会の課題に、冒険遊び場づくりはどのように応えられるかを対話の中から見出す企画としたい。

N遊S紙面では、39号（5・佐々木、6・竹内両理事）と41号（7・福島監事）において、ダイジェスト報告を行った。そして42号は「もっと！対話の会準備号」として、平成22年2月21日に仙台で行われたシンポジウム「子どもが自ら育つ“まち”を考える」の報告を行った。

今後は、冒険遊び場づくりで「遊びあふれるまちへ」と社会を変えるイメージを示す、社会的に冒険遊び場づくりの有効性を認知してもらう助けになる冊子を、PDF化しWeb上で公開できるように作成する。

09 講師派遣無料キャンペーン事業の実施

■事業目的：講師派遣無料キャンペーン事業は、①子どもの遊び・冒険遊び場づくり活動・プレーリーダー等の重要性を、より広く社会に伝えていくこと ②協会の団体正会員の冒険遊び場づくり活動を支援すること ③協会の団体正会員を増加させることにより、協会の財政基盤を強化することを目的とする。

■実施体制：天野秀昭、石田太介、梶木典子、関戸まゆみ

協会の財政を少しでも潤したいと同時に会員の役に立つことを、との思いから発案されスタートした本事業なので、副代表が4人で取り組むという体制で臨んだ。これは、招聘団体が関西方面、関東方面、いずれも交通費の負担を極力かけずに人材を派遣する上でも大切だという配慮でもあった。

■活動概要と成果：まず、派遣講師として名乗りを上げる理事、地域運営委員を募った。名乗りをあげたメンバーには各自のプロフィールを提出してもらい、それらをまとめ一覧表にした。団体正会員はもちろん非会員である活動団体に対しても、会員へのお誘いの意味を込めて「N遊S40号」とともに配布した。結果は問い合わせが4件あり、実施に至ったのは2件であった。この点に関し10月の理事会で検証しあったが、①無料とはいえ交通費、宿泊代はかかるものであること ②参加費を取って学習会等を開くのは、実際のところ結構ハードルが高い ③謝金なら助成金等を取ったりできるが、参加費はそういうわけにはいかない ④謝金として払われるのではないため、領収書が出ない などの点が使いにくさを感じさせたのではないかと結論に至った。また、本事業の呼称が誤解を招く可能性があることも鑑み、次に行う場合は「無償講師派遣事業」とすることも確認した。しかし、2009年度は既に呼称も含め告知済みだったこと、途中で内容を変えると混乱を招く可能性があったことから、年度内は当初の条件を変更せず、新年度から再考することとし、「N遊S41号」で再度告知した。

講師派遣の依頼自体は多いものの、この事業制度システムを使って実施する団体が少ない。この制度そのものが市民活動団体の活動に馴染まない可能性も考慮に入れる必要があるのかもしれない。今後、本事業を行うにあたっては、理事、地域運営委員もボランティアで行うために過剰負担とならないように配慮しつつ、団体会員の力となり団体増が協会の財源にも結びつく取り組みをさらに工夫していきたい。

収支計算書					
自 2009年 4月 1日					
至 2010年 3月 31日 (単位:円)					
支出の部			収入の部		
科目	金額	科目	金額	科目	金額
【事業費】		【管理費】		【経常収入】	
給料 手当(事業)	0	給料 手当	2,240,400	受託事業収入	3,015,410
事業推進事務局費	0	法定福利費	299,926	助成金収入	0
事業委託費	499,052	福利厚生費	0	会費 収入	3,184,000
謝 金(事業)	1,098,805	通 信 費	139,138	寄付金収入	1,186,728
ボランティア経費	0	印刷製本費	27,624	参加費収入	50,500
通 信 費(事業)	0	荷造 運賃	209,597	取材対応収入	0
印刷製本費(事業)	348,453	水道光熱費	72,000	販売 収入	943,215
荷造 運賃(事業)	120,760	旅費交通費	93,110	その他事業収入	62,797
旅費交通費(事業)	75,060	広告宣伝費	0	広告 収入	47,580
会 議 費(事業)	19,500	会 議 費	56,326	受取利息収入	885
編 集 費(事業)	50,000	備品消耗品費	136,981		
雑 費(事業)	0	修 繕 費	15,750		
商品 仕入	794,020	租税公課	1,000		
棚卸資産増減額	△ 243,166	支払手数料	2,730		
		雑 費	1,450		
事業費 計	2,762,484	管理費 計	3,296,032	経常収入 計	8,491,115
		支出の部合計	6,058,516	収入の部合計	8,491,115
当期収支差額	2,432,599	次期繰越収支差額	4,291,304	前期繰越収支差額	1,858,705
		TOTAL	10,349,820	TOTAL	10,349,820

貸借対照表

2010年 3月 31日現在 (単位:円)

資産の部		負債の部		正味財産の部	
科目	金額	科目	金額	科目	金額
【流動資産】		【流動負債】		【正味財産】	
(現金・預金)		未 払 金	1,055,500	正味 財産	4,291,304
現 金	97,241	前 受 金	0	(うち当期正味財産増加額)	2,432,599
普通 預金	1,301,467	預 り 金	55,971	正味財産の部合計	4,291,304
郵便 振替	3,131,508	仮 受 金	54,957		
未 収 金	1,296,800	【固定負債】			
(棚卸資産)		長期借入金	1,180,000		
棚卸 資産	810,716	負債の部合計	2,346,428		
(その他流動資産)					
前払 費用	0				
立 替 金	0				
仮 払 金	0				
流動資産合計	6,637,732				
【固定資産】					
(有形固定資産)					
固定資産合計	0				
資産の部合計	6,637,732	負債・正味財産の部合計		6,637,732	

財産目録

2010年 3月 31日現在 (単位:円)

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
【流動資産】		【固定資産】	
(現金・預金)		(有形固定資産)	
現 金	97,241		
普通 預金	1,301,467		
郵便 振替	3,131,508		
(売上債権)			
未 収 金	1,296,800		
(棚卸資産)			
販売用資産	810,716		
(その他流動資産)			
前払 費用	0		
立 替 金	0		
仮 払 金	0		
流動資産合計	6,637,732	固定資産合計	0
資産の部合計	6,637,732	負債の部合計	2,346,428
		正味財産	4,291,304

日本冒険遊び場づくり協会 2009 年度決算(部門別)

							単位 千円		
収入の部									
	組織運営 (管理+N遊S)	受託事業	N遊S	学習会	全国集会	政策提言 (マップ含)	合計	当初予算	差違
会費収入	3,184						3,184	4,300	△ 1,116
寄付金収入	1,187						1,187	884	303
受託事業収入		3,015					3,015	200	2,815
参加費収入				51			51	302	△ 251
販売等収入	755					188	943	1,085	△ 142
助成金収入							0	0	0
その他事業収入	47						47	0	47
その他収入	13					51	64	600	△ 536
当期収入計	5,186	3,015	0	51	0	239	8,491	7,371	1,120
前期繰越							1,859		
合計							10,350		
支出の部									
	組織運営 (管理+N遊S)	受託事業	N遊S	学習会	全国集会	政策提言	合計	当初予算	差違
(事業費)									
給料手当て							0	0	0
謝金		1,598					1,598	230	1,368
仕入れ	551					273	824	300	524
事業委託費							0	0	0
その他事業費	18	146	92	12	12	61	341	1,349	△ 1,008
事業費合計	569	1,744	92	12	12	334	2,763	1,879	884
(管理費)									
給料手当	2,240						2,240	2,640	△ 400
法定福利費	300						300	317	△ 17
その他管理費	756						756	1,600	△ 844
管理費合計	3,296	0	0	0	0	0	3,296	4,557	△ 1,261
当期支出計	3,865	1,744	92	12	12	334	6,059	6,436	△ 377
次期繰越							4,291		
合計							10,350		
当期収支差額	1,321	1,271	△ 92	39	△ 12	△ 95	2,432		

【会計コメント】

収入は、受託事業、会費、寄付金、販売などの収入が約849万ありました。うち会費収入は予算430万のところ318万と74%の達成率でした。昨年度と比べ、会員数は微増だったにもかかわらず二倍近い増収となっており、これは会費の改定と納付率の向上によるものです。また受託事業収入は33件の事業の実施依頼を受け、約301万の収入でした。社会的ニーズの高まりを受け、昨年度の二倍以上に増額しました。

支出は、事業費約276万と管理費約330万の合計約606万の支出がありました。

単年度の収支は約243万のプラスとなりました。次年度に繰り越す収支差額は、約429万となりました。

09年度は、受託事業のほか、N遊S、学習会、政策提言の大きな分類の事業を実施し、また10年度全国集会に向けてもすでに動き始めています。なお組織運営には管理部門と販売等の事業を含んでいます。

まず組織運営では、会費収入318万、寄付金収入118万、販売75万等の合計511万の収入がありました。それに対する支出は、書籍等の仕入れが55万、給料手当てが224万、法定福利費30万その他の経費で計386万となりました。昨年からは、協会の財政的な危機のため、会費の増額をお願いしてまいりましたが、会員各位のご理解とご協力により、会費収入318万で事務局員の雇用に関する経費が賅われたことは感謝に耐えません。それに加えて、理事・地域委員・会員それぞれが事務局と連携し、協会活動を進めたことにより、財政的に危機的だった状況は回避することができたものと考えます。

そのほかの各事業は、受託事業は収入301万、支出174万で収支は127万プラス。N遊Sは収入がなく、支出のみ9万で収支は9万マイナス。学習会は収入5万、支出1万で収支は4万プラス。全国集会はまだ収入は発生していないため、支出のみ1万で収支は1万マイナス。政策提言は収入が23万で、支出は33万で収支は10万マイナスですが、寄付金収入の中には提言書やマップに関するカンパも含まれています。